

# 第1回 長浜市総合教育会議 議事録

I 日 時 平成30年6月29日（金曜日）13時30分～15時30分

II 場 所 長浜市立余呉小中学校

## III 出席者

【構 成 員】 藤井勇治市長、板山英信教育長、井関真弓教育委員  
西橋義仁教育委員、西前智子教育委員  
廣田光前教育委員、美濃部俊裕教育委員

【オブザーバー】 大塚義之副市長

【余呉小中学校】 筑田校長、柴田教頭、横田教頭

【事 務 局】 米田教育部長、岩田教育委員会事務局次長、  
横尾教育委員会事務局次長、伊藤教育指導課長、  
土田教育改革推進室長、大田すこやか教育推進課長、  
常陸教育改革推進室副参事、今井教育総務課長代理、  
古田総合政策部長、横尾総合政策課長、  
柴田総合政策課長代理  
ほか担当職員（2名）

【議事進行】 古田総合政策部長

【傍 聴 者】 なし

【報道機関】 ZTV、中日新聞社

## IV 内 容

### 1 開 会

### 2 市長あいさつ

（要旨）

- ・平成30年度第1回長浜市総合教育会議の開催にあたり、みなさまお忙しい中ご参集いただき感謝申しあげる。
- ・本日お集まりいただきました委員の皆様におかれましては、日ごろから、子どもたちの教育の充実と発展、そして健全育成のために、大変なご尽力を賜っておりますことに、心から感謝申しあげる。
- ・また、余呉小中学校の校長先生、教頭先生におかれましては、ご多忙のなか、長浜市総合教育会議の開催にご協力賜り、感謝申しあげる。

- ・まず、先週発生した「大阪府北部を震源とする地震」において、9歳の女の子をはじめ、4人もの尊い命が失われたことに、心から哀悼の意を表するとともに、被災されたみなさまに心からお見舞いを申しあげる。  
この地震を受けて、ただちに市内全学校施設を対象に、老朽化した工作物の点検を行ったところ、法令違反している案件はないと報告を受けている。  
しかし、いつ何時、想定外のことが起こるか分からないのが天災であり、引き続き気を引き締め、災害体制を盤石なものにしたいと考えている。
- ・さて、本日の総合教育会議については、「余呉小中学校開校について」をテーマとして、意見交換をさせていただく。
- ・すべてが新しく始まるこの4月に、滋賀県初の施設一体型の義務教育学校である「長浜市立余呉小中学校」が開校した。小学校と中学校という枠組みを外し、発達段階に応じた柔軟な指導が進んでいる。
- ・開校式に私も出席させていただいたが、児童生徒の代表の子どもからは、「この学校に自信と誇りを持ち、夢に向かって学習や部活動がんばっていきたい。」という力強い抱負があった。
- ・時代とともに学校を取り巻く環境は変わっていくが、学校に通う子どもたちと、学校を支えるみなさんの「思い」は今も昔も変わらずにあると思う。
- ・私は常々申しあげているが、国家の百年の大計である「教育」について、地域の宝であり次代を担う大切な子どもたちをしっかりと育てていくのは、今を生きる私たち大人の責任であるとの考えをもっている。
- ・長浜市政の最も根幹をなす総合計画において、『新たな感性を生かし みんなで未来を創るまち 長浜』を実現するための合言葉として『Challenge（挑戦）&Creation（創造）』を掲げているが、子どもたちにとっては毎日が挑戦と創造の繰り返しであろうと思う。その挑戦や創造を、夢や希望を持って膨らませることができるよう、その教育環境づくりについて、みなさまと意見交換をしたいと思っている。
- ・教育委員のみなさまと行政が今後の長浜市の教育のあり方について活発な意見交換を行い、より良き教育の方向性を見出すことができることを心から期待してご挨拶とさせていただきます。

### 3 長浜市立余呉小中学校校長あいさつ

（要旨）

- ・本日は、総合教育会議を余呉小中学校で開催いただいたことに感謝申しあげる。
- ・開校以来、3ヶ月経過し、率直な感想として、小中学校になってよかったと感じている。1学期末には、生徒、保護者、地域の皆様方にこの開校がどのように受け止められているか忌憚のない意見をお聞きしたいと考えている。

- ・本日は、開校以来3ヶ月経過した状況を後ほど説明するが、その前に学校内を参観いただく。7年生から9年生については期末テスト期間中のため、授業ではなくテスト勉強と教育相談となっているので、ご了解いただきたい。
- ・1年生から6年生までの授業を参観いただくことになるが、特に3年生ではよごふるさと科の地域学習をしている茶わんまつりの花笠踊りの指導、そして4年生では1つの目玉であるICT教育でプログラミング学習をしているので、ゆっくりご参観いただけたらと考えている。
- ・3ヶ月経過して、成果とともにいろいろな課題も見えてきた。長浜市、そして滋賀県で初の義務教育学校として、私としては、いろいろな面で大きな成果をあげていると感じているので、その辺もお聞きいただきながら、忌憚のないご意見をいただき、さらにこの学校を良いものとしていきたいと考えているので、よろしく願います。

#### 4 長浜市立余呉小中学校施設ならびに学習の様子参観

余呉小中学校 柴田教頭の案内により、施設や授業の参観を行った。

#### 5 議事

「余呉小中学校開校について

～義務教育学校の可能性、地域連携・協働のカリキュラム化～」

(1) 余呉小中学校開校について（事務局から説明）

- ・余呉小中学校開校までの道のり、校章・校歌等について説明。

(2) 長浜市立余呉小中学校の取組、目指す姿について（筑田校長から説明）

- ・小中学校の互いの枠、文化を超えた、従来にない職員室の紹介。  
⇒小中学校が1つの職員室で運営を行なう。  
机の配置を囲むような形にし、互いの顔を見合わせられるような形にした。  
職員全員で153名の小中学校生徒全員を見ていく。
- ・1年生から9年生までの幅広い年代での異年齢交流が盛んであり、子どもの社会性が培われている。
- ・ランチルームでの給食での取組について  
⇒生徒の誕生日を紹介したりするなど、大きな家族のようになっている。
- ・よごふるさと科の取組や地域との繋がり、ICTを活用した授業などの紹介。

余呉小中学校の施設・授業等の参観、説明を受け、構成員から出された意見や質問は次のとおり。

#### 〈市長〉

本日、余呉小中学校を参観させていただいて、一安心した。校長先生が自信と誇りを持って一貫して説明いただき、大変安心感を覚えた。

教育委員会でもいろいろな背景があり、小中学校を一つにするため、長い月日を重ねてスタートしたわけで、もちろんしっかりと教育を充実させることは大前提だが、地域のみなさんにとって小中一貫校というのは初めての経験のため、行政にとっては不安と心配があった。

初めてのことなので、どれだけ言葉で説明してもらえなくてもわかってもらえない部分があるが、先生方のご苦勞をお聞きしたり、参観させていただいたりして、子どもたちが元気で頑張っている姿を見て一安心した。

初めてのことで、校長先生以下、教頭先生、先生方のご苦勞も多いかと思うが、手探りのところもあってもいいかと思うので、肩肘張らずに、一つひとつ目標を作りあげていただきたいと思うので、よろしく願います。

校長先生からいいお話をたくさんお聞きしているが、例えば、1年生から9年生と一緒にミーティングする際の、ロスとかムダはないのかということをお聞きしたい。

#### 〈校長〉

先日、全校総会で「私の思い」という作文の発表をした。総会は1年生から9年生が整列するわけだが、そのときは5年生以上の合計9名が発表した。1年生は半分聞いて退場、2年生は7名まで聞いて退場させた。子どもの実態に合わせて対応した。子どもたちは私たちが思っているより集会の中でも座っていて、騒いだりすることもなかった。

学年生会の総会があり、5年生以上が委員に入っているので、1年生から4年生には委員会について担任から説明いただいている。総会の際は、上級生が真ん中に出てきて質問をするわけだが、それを見て、予定にはなかった2年生が手をあげて質問に出てきて、ランチルームに放送委員がいるが、「(給食の時間に)クイズはしないんですか」という質問を出していた。

小中が一緒になったことで、下級生が上級生を見て、私たちが思っている以上に、学んでいるな、ということを感じた。私は朝、挨拶に立っているが、上級生は疲れた顔で朝登校してくるが、後ろから下級生が元気な声で「おはようございます」と挨拶することで上級生も思わず「おはようございます」と挨拶をしているところを見て、お互いにいいところを吸収していると感じている。

#### 〈意見：教育委員〉

まず、ランチルームで1年生から9年生、先生方も一緒に給食を食べていることに一体感を感じた。みんなでご飯を食べる、ということではいろいろな話ができたり、和んだりできるので、ひとつのランチルームでごはんを食べるということはとてもいいことだと思う。併せて、誕生日の子どもをみんなの前で披露し、みんなで祝うことも

すごくすばらしい。先生方の誕生日も一緒にお祝いすることもいいなと思った。家族のような雰囲気がいいなと感じた。

余呉小中学校になって、保護者の方々が何を期待しているかということが気になっている。私は立ち上げ時から関わらせていただいているが、ふるさとというのはもちろんだが、学力ということが重点項目だと思う。

例えば、余呉小中学校では、先取りの学習をしたり、小学校でも中学校の専門の先生に教えてもらったりするなど、たくさんいい面があると思う。それを保護者の方々にこんな風にできるようになったんだという返し方はなかなか難しいと思うが、例えば、100マス計算の影山先生が岡山の田舎の小学校に行かれ、有名な国公立の大学に進学させたようなこともあるが、一人ひとりを丁寧に長い目で見られる利点が、子どもの成長とともに学力がつく、つまりその指標となる。例えば、全国学力テストを毎年受けてみる等、もっと注目を浴びるのではないかと思った。先生方には本当にご苦労いただいているが、注目されているかと思うのでよろしくお願ひしたい。

最後に、単級のまま進級していくと、人間関係が固定化するということがこの学校でも言われていることだと思うが、中学校に進学した際に、他の小学校の生徒と一緒にになって自分をリセットするということが、一貫校ではできなくなる。9年間の中で自分をどうしていくか、友達の中で自分がこういう人だと思われていることをどこでリセットするか、子どもの能力を引き出す等、先生方には大変ご苦労いただくことになろうと思うが、大きな力を発揮いただきたいと思う。

また、新教科のよごふるさと科で余呉の自然の良さもそうだが、いろいろな経験や活動を通して子どもたち同士がお互いのよさを見つけられることも大事だと思う。例えば「走れメロス」では、お互いに認めあうことができ初めて深い友情になっていくことが描かれているが、9年間の中で、学校での生活を含め、お互いを認め合えるような人間教育も重要だと思った。

9年間を振り返ったときに、素晴らしい余呉小中学校を自分は卒業できたなと思えるように、よろしくお願ひする。

#### 〈意見：教育委員〉

学校内を訪問させていただいて、子どもたちが成長するために工夫されていると感じた。孫が生まれたらお世話になりたいと思った。

校歌も一般的なイメージとはまったく違う校歌で、歌ってみたいと感じる、いつまでも残る曲だと思う。

ランチルームで誕生会をされていて、子どもたちが大切な誕生日をみんなから祝ってもらえる機会があることはとてもいいと思う。映像の中では、先生方が寄って、給食を撮られていたが、その時に話したいこともあるのかもしれないが、子どもたちの中に入って給食を食べられてはどうかと思った。

6年生の歴史の授業では、後期の先生が授業をされていた。後期の先生が前期の授業をされることのあるとのことだが、前期の先生が後期の学年の授業をされること

あるのか。後期の先生の仕事量が増えることはないのかと思った。

〈筑田校長〉

授業研究をするが、そのとき自習にさせて、中学校の教員の授業を小学校の先生に見ていただくと、本当に勉強になると喜んでもらっている。小学校の先生は1日子どもにはりついているし、中学校の先生は空き時間があるということで、本校の学級数を考えると、下の学年を教えに行っても時間数としては中学校の先生がオーバーワークしていることはない。部活についても前期課程の先生も担当していただいている。送迎バスの制限があって、本来はもう少し部活動にも参加していただきたかったが、現状は週一で参加している。

〈意見：教育委員〉

県下では5・5（5歳と5年生）交流がずっと行われている。最初は私も難儀かと思ったが、異年齢交流で5年生が幼稚園児に接するとお兄ちゃん、お姉ちゃんらしくなるという効果がすごいそうだ。余呉小中学校ができたことによって、大人の一步手前の中学校3年生と低学年の子ども、あるいは5、6年生の子どもたちと交流することは、5・5交流と似ていて、それを一生懸命工夫してやっていただいていると感じた。

また、日本中でコミュニティスクールが設置されて、長浜市はどこの学校も地域と学校との連携がすごく進んでいると思う。地域のみなさんも学校に協力してくださるし、学校も地域のことを知ることが進んだと思う。今回小中が一緒になり、よごふるさと科についても、地域のみなさんももっと今まで以上に交流したり、子どもも自分のふるさとをより知って、誇りをもって育っていく。余呉は過疎が進んでいる。余呉の話というわけではないが、自治会によって重い空気のところと人数が少なくても活気のあるところとある。余呉小中学校ができたことによって、地域のみなさんも元気になると思う。将来的には、滋賀県の冊子を見ていると、「地域に開かれた学校」から「地域とともにある学校」というフレーズが入ったと思うが、これからはもっともっと学校と地域が一体化していく時代となると思うし、その最先端に行く、子どもたちが自分のふるさとに誇りを持つとともに、ふるさとに帰ってきて、余呉を何とかするんだという子どもがたくさん出てくる予感がしている。

〈意見：教育委員〉

光の取り方、各教室が明るくてとても印象が良かった。14年間経ってもまだ木の香りが残っていて、とてもいい学校である。先ほど、お孫さんを入学させたいとおっしゃっていたが、私もこちらへ入学したいと感じた。

私は余呉が大好きで、春夏秋冬、何度か過ごしたことがある。冬になると余呉湖の雪などの景色は写真家としてとても憧れる。余呉には誇れるところはたくさんある。

柳ヶ瀬トンネルをご存知だろうか。日本の鉄道の発祥地でもある。誇りのもてる場所

である。高速道路がないころによく利用した。

私は余呉がとても大好きで、何とか余呉の自然を利用して地域活性化の発信地としてほしい。私の住む地域の虎姫小、虎姫中でも取り入れるとのことなので、大変参考になった。感謝する。

また、余呉地域は夜になると光が少ないため、是非天文台とまではいかなくとも、天文を観察できる望遠鏡等設置を検討いただきたい。星空がきれいだと思うので、銀河や星座などよく見えると思う。よろしくお願ひしたい。

〈意見：教育委員〉

確か4年前だが、当時の教育長から聞いた構想に小中一貫教育校が入っておりまして、以後、事務局から進捗について定例の教育委員会を通じて詳しく説明を受けてきた。今日は、とても楽しみにしてきた。

昨年度までは何度もこの学校へ伺って授業を参観させていただいたり、校舎を見せていただいたりした。4月以降、どうかわっているだろうか楽しみにしてきた。その楽しみの答えがこの会議が始まって校長先生の最初の挨拶の第一声で「よかった」とおっしゃったので、それが私は全てだと思っている。積極的に取り組み、進めていただいて感謝を申しあげたいと思う。

もう1つは、他の学校と徹底的な違いは、先ほど校長先生の言葉でもあったように、小学校の先生と中学校の先生が同じ職員室で勤務しておられるということは、これまで考えられなかったことだ。私は中学校の教師をしていたが、中学校の3年間で進路を決めていかなければならない。小学校の先生は6年間で中学校へ送り出せば、進路を決めなくてもいいし、いいなという目で見えていた部分があった。小学校の先生と中学校の先生が同じ職員室であるというのは、職員室文化というのが、学校の教育に大きく影響してくるのではないかと思う。もし別々の職員室であれば、機能しなくなると思っている。

もう1つは、この学校に勤務する先生の条件として、小学校と中学校の免許を両方持っている先生がベストであろうと思う。9年間ずっと受け持って卒業させた後、小学校1年生を受け持つことも可能になる職員集団、これは教育委員会の仕事になるかと思うが、これができて、よりよく機能していくのではないかと思う。

義務教育学校が全国的に行われるようになって、10年近く経つのだろうか。当初から実施している学校でメリットとデメリットが指摘され始めた。メリットはたくさんあるが、デメリットとして、先ほどおっしゃったように、1つの集団が9年間変わらず、刺激がないわけである。

私たちが昨年、一昨年に教育委員会で検討させていただく中で、「小学校の卒業式はないんですか」「中学校の入学式はないんですか」という質問をした。子どもたち、また保護者にとって、6年間の小学校教育を終えて、「卒業」というのは、とても大きなインパクトがある。そして新しく中学校に入学して中学生になったという感激がなくなるが、いかななものかと質問したことがある。余呉小中学校に通っている子どもたちは小学校の卒業式がない。卒業証書もない。(校長：卒業証書は“前期課程修了”という

ものがある。)子どもが感動する、先ほどスイッチを切り替えるという話があったが、そういう場面がないのは少し寂しい感じがするので、そこらへんを工夫していただいて、子どもたちが感動を得られるような区切りや、新しいステージにいくんだということが実感できるような仕組みができればいいと思った。

まだ3、4ヶ月経過したばかりで、なかなか結果はでてこないと思うが、私が期待するのは、こういうシステムの学校だからできること、こういうシステムの学校でしかできないことを模索していただき、他の学校が真似できないこと、地域の学習についてはどこでもやろうと思えばできることなので、異年齢集団を徹底的に活かして、他の学校ではシステムが違うからマネできないというところまで高めていただければより価値がでるのではないかと思う。

もう1点、長浜市にお願いしたいことだが、バス停は“余呉小中学校”となっているが、避難場所の看板は“余呉小学校”のままになっている。余呉小中学校が開校しているわけなので、せめて看板は修正をお願いします。

#### 〈意見：教育委員〉

地震の問題で、姉川大地震をご存知かと思う。湖北医師会の救急災害の担当の際、地震について勉強した。姉川地震は100から200年に1度発生しており、姉川大地震は柳ヶ瀬断層で発生しており、ちょうどこの地域であり、地震がいつ起きてもおかしくない。災害に対して、どのような対策をとり、また地域住民に対して呼びかけも重要であると思う。

#### 〈教育長〉

小中一貫教育について協議を始めた当初はマイナスの発想が多かった。例えば、学校の先生方の意見の中には「教育目標を決めるだけでも1年はかかる、教育課程も2年ぐらいかかる、効果を検証するのにさらに1年はかかる。2、3年で立ち上げるのは絶対に無理である。」というものだった。その都度、私が説得してきたのは、「無理だという発想からは何も生まれない、3年、5年かけて100%準備ができて、スタートということはない。むしろ余呉小中学校はみんなで作っていく学校にしたい。」ということを伝えてきた。

市長からは「新しい学校のリーダーとなる校長先生がキーポイントだ。」ということを知っていた。余呉小中学校は管理職のリーダーシップのもと、新しい取組を進めていただきよかったと思っている。

まず子どもたちが夢を持てる学校、誇りを持てる学校にしたい。できれば、彦根、草津や近江八幡から余呉で自分の子どもを是非勉強させたいと思われるような、委員がおっしゃったように、あそこにいけば、すばらしい高校に進学できるというのも大きな魅力かと思う。私がここに来るたびに嬉しく思うのは、冬服で子どもたちはエンブレムの入ったブレザーを着ているわけだが、大きめのブレザーを1年生が嬉しそうに着ているのを見るとよかったなと思う。そういう夢と誇りを持てる学校にしたいと思う。



スポーツ庁が部活動の改革ということで打ち出したが、余呉は違う形にしてはどうか。中学校に入学して女子バレーボール部に入って3年生までやります、では何も変わらない。もちろん、アメリカの中学校、高校のように夏はこれ、冬はこれ、といったようにしてもいいかもしれない。余呉地域で雪はマイナスのイメージである。よく考えてみたら、彦根に雪は降らず、余呉には降る。雪をプラスに変えて、例えばウッディパル赤子山にジャンプ台を作るとか、クロスカントリーのコースを作って、全員がクロスカントリー部といったように、自分たちの学校には西中や北中にはないこういうものがあるんだということを実現したい。

また給食のことだが、給食センターから運んでもらうのではなく、畑や田はいっぱいあるので、自分たちで野菜を育てて、自分たちで給食を作って食べることも考えてもいいと思う。修学旅行もそうだが、中学校3年生で行かなければならないわけではない、行きたければ毎年行ってもいい。こういう自由な発想で、他の学校ではやっていない、できない、余呉でしかできない魅力を今後どう作っていくかということが大きな課題であり、学校だけに押し付けるのではなく、教育委員会も共に考えていく所存である。皆さんから様々なご意見を頂戴しながら、学校と共に一つひとつ未来に向かってやっていきたいと思っているので、よろしくお願いします。

## 6 その他

〈事務局〉

本日の議事録については、内容を委員の皆さまに確認いただいたのち、ホームページにて公開する。平成30年度第2回目の総合教育会議については、10月初旬ごろに開催を予定している。

## 7 閉会

教育長あいさつ

(要旨)

先ほど校歌が流れたが、昨年校歌が完成したときに、教育改革推進室の職員が是非聞いてほしいと持ってきた。その時にしみじみと「聞くたびに涙がでるんです」と言っていた。確かに聞いてみると、いい歌だと思った。この校歌が30年、50年経って、懐かしい感じで同窓会で歌われることを期待したいと思う。

先日、文科省の会議に出席した際に、「小中一貫教育はよりよい教育を実現するための手段であり、それ自体が目的ではない。」ということをやっていた。余呉小中学校は生まれたばかりである。それぞれの立場から皆さんの暖かいご支援と厳しいご指摘等をいただいて、一人前の学校にしていければと思う。本日は感謝申しあげる。

15時30分 閉会